

研究結果報告書

グローバル化時代に求められる人材の育成：大学カリキュラムにおける海外インターンシップの課題と展開

所属：タマサート大学

役職：専任講師

氏名：ムニンタラウオン・シリワン

日本という国に興味を持ち、日本語を学ぶ、タイの学生の多くは、日本や日系企業での就業を夢見ている。そのため、このニーズにあった教育カリキュラムの編成が必要であり、特に、学生のキャリア形成に欠くことができない企業でのインターンシップを活用した教育プログラムが重要である。しかし、タイ国内の日本語教育の現場は、インターンシップ教育が導入されてわずかであり、インターンシップを通じた学生の指導のあり方が不明確で、また、教員が指導だけでなく全体の運営を担うため負担が大きく、拡充と改善を図る必要がある。そこで、各教育機関の取組を整理し、また、実際にインターンシップを行う学生と企業の状況から、課題を把握した。

大学の事例調査では、タイ国内では海外インターンシップ推進の拠点校となっている教育機関において、学校及び学生の特徴とカリキュラム、派遣先の企業の傾向等を整理した。海外事例としては、海外インターンシップが定着している2ヶ所の教育機関と日本語教育分野でキャリア支援にも取り組んでいる1ヶ所の教育機関について、カリキュラム等を整理するとともに、学生の事前準備の授業等の様子を実際に観察した。また、本学学生が実習する企業において、実際に企業を訪問し、学生の勤務態度や作業状況、社員との関係性、指導状況等を確認した。

事例調査からは、タイ国内ではあまり行われていないインターンシップ前後の指導が海外事例では行われており、授業等の状況からも、インターンシップ開始前の準備、完了後の反省と改善までを教育プログラムとして包括することが重要であると分かった。また、企業への訪問からは、企業での作業内容と学生の適性を考慮しつつ、学生・企業の双方が勤務状況等を評価する必要があることが分かった。そして、教育プログラムや学生と企業のマッチング等を円滑に行えるよう、専用の組織の必要性も確認した。

このような調査をもとに、インターンシップを通じた学生の成長を促しつつ、効率的なカリキュラム運営のため、タマサート大学へ次の内容を取りまとめた提言書を提出した。まず、学生への指導については、受け入れ先企業での適性等に左右されず能力向上が図れるよう、インターンシップでの目的を明確に示し、自己成長を促すよう事前・事後研修を含めた長期的な指導期間を設定することを提案した。

次に、教員の負担を下げつつ、円滑なインターンシップの実施とその後の就職活動に向けた継続的な支援ができるよう、キャリアセンターを新たに設立することを提案した。また、タイにおいてインターンシップ教育は試行段階であることから、国内の関係大学がノウハウを共有できるよう、教員が積極的にセミナー等に参加できるようにも提案している。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

シリワン・ムニンタラウォン. (2019年7月). 「企業インターンシップ参加に係る日本語講座学生の課題となると社会人の基礎能力の把握」. 国際日本研究センター夏季セミナー&サマースクール 2019. 東京外国語大学.

シリワン・ムニンタラウォン. (2020年2月). 「日本の労働市場に向けたインターンシッププログラムと日本語人材の採用」 (パネルディスカッション). タイ日研究ネットワーク Thailand 国際シンポジウム 2020. タイ商工会議所大学.

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

「グローバル化時代に求められる人材の育成 –大学カリキュラムにおける海外インターンシップの課題と展開–」 jsn Journal 10 巻2号 (予定)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)